

研究成果報告書

2020年 8月3日

1. 所属・職・氏名 等

地域社会学科・准教授・小島恵

2. 研究課題（テーマ）名

「環境法における新たな諸問題を予防原則から考える」

3. 研究期間

2019年4月1日~2020年3月31日

4. 利用した研究費の種類及び金額

学術研究費交付金	250,000 円
若手教員研究促進交付金	200,000 円
外部資金獲得支援交付金	100,000 円

5. 研究の概要

本研究においては、これまで蓄積してきた知見を踏まえつつ、近時新たに生じた環境法上の諸問題を予防原則との関係で検討することを目的とする。多様なリスクに囲まれる現代社会において、正義と公平にかなう法政策のあり方を探求し、人の健康や環境への被害を予防し、かつ発生してしまった損害に関しては適正な賠償を実現することは、環境法の果たすべき重要な役割の一つである。これを実現するため、あるべき予防原則の適用方法について研究する。近時新たに生じた問題としては、マイクロプラスチックによる健康・環境リスク、現在国連で条約化が検討されているグローバル・パクトに基づく行政と民間の役割分担、遺伝子組換えおよび遺伝子編集技術による人の健康と生態系への問題を3つの柱として研究を進める。

6. 研究成果等

今年度は3つの課題について以下のような成果をあげた。

一つ目の課題として挙げていたマイクロプラスチックによる環境リスクの問題について、EUや日本の最新動向を調査し、その結果を業績1)の論文にまとめた。

二つ目の課題として挙げていた国連グローバル・パクトの動向については、基礎的な文献の収集・翻訳を行なった。

三つ目の課題として挙げていた化学物質管理と遺伝子組換え動植物については、特に前者について、この3年間行なってきた共同研究の中間まとめを学会報告した(業績2))。後者については最新の文献調査・翻訳を行うとともに、農業従事者へのヒアリングを行った。

7. 研究の実績（論文・発表 等）

- 1) 単著「進化を続ける EU の循環管理法の基本構造」都留文科大学研究紀要第 90 集（2019 年）
- 2) 共同研究の口頭発表「化学物質リスク管理における科学的知見の不確実性と予防的アプローチの適用方法に関する考察」リスク学会年次研究会（2019 年 11 月 23 日）